



この冊子は色覚の個人差を問わず、
できるだけ多くの人に見やすいよう
カラーユニバーサルデザインに配慮して
つくられています。

当プロジェクトでは、障がいのある人たちも含め、より多くみなさまにこの冊子を手にとってもらいたいという思いと、ユニバーサルな考え方がより一層浸透し、誰もが暮らしやすい社会になってほしいとの願いから、「カラーユニバーサルデザイン」を導入しました。

札幌市

発達障がいのある人たちへの八つの支援ポイント
学校で使える「虎の巻」

虎の巻シリーズ 其三

学校で使える「虎の巻」

発達障がいのある人たちへの八つの支援ポイント

平成29年12月発行

制作／札幌市教育委員会 虎の巻作成プロジェクト 札幌市保健福祉局
発行／札幌市教育委員会

〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 STV北2条ビル
TEL:011-211-3851 FAX:011-211-3852

表紙デザインイラスト／栗田 正樹



さっぽろ市
01-F04-17-1779
20-1-116

はじめに

「ずっと、小鳥と、それからわたし、みんなちがって、みんないい。」と結ばれている童謡詩人・金子みすゞの代表作『わたしと小鳥とずっと』。みんな違うけれど、それぞれによさがあり、それがいいという素朴で力強いメッセージが伝わってきます。違うことは本来、優劣ではないはずです。しかし、違うことで意思の疎通が難しかったり、悩んだり、苦しんだり、心を痛めたりしている方々も少なくありません。

札幌市では、発達障がいのある人たちが社会で十分活躍できるよう、支援体制づくりに取り組んでいます。この冊子では、これまで札幌市保健福祉局就労支援プロジェクトが制作してきた「虎の巻シリーズ」の「職場編」「暮らし編」に続く第三作として、主人公である「虎夫さん」「卷子さん」の小学校時代に遡ってみました。制作にあたっては、札幌市教育委員会と札幌市保健福祉局虎の巻作成プロジェクトが中心となり、発達障がいのある人たちへの支援に携わる関係者の協力を得ています。

発達障がいのある人などが、「止むに止まれず」起こしてしまう行動などに焦点を当て、その感情や行動の背景などを目に見える形で表現し、解決に向けた対応の一例を示しています。多様で豊かな価値感が共存する社会のために、この冊子を相互理解のきっかけとしてご活用いただければ幸いです。

札幌市教育委員会 虎の巻作成プロジェクト 札幌市保健福祉局

登場人物の紹介

虎夫くんは自閉症、卷子さんはアスペルガー症候群という広汎性発達障がいの診断を後に受けることになります。二人は様々な経験をしながら成長し、それぞれの職場で活躍していきます(詳細は『職場で使える「虎の巻」』、『暮らしで使える「虎の巻」』をご参照ください)。しかし、小さい頃の二人は…。



虎夫くん

虎夫くんは、まわりのことを考えたり、全体を見渡したりするのが苦手で、みんなで何かに取り組むときにちょっとしたトラブルを起こしがち。先生もクラスメイトもそんな虎夫くんとうまく関わらず、“ちょっと困った児童”として捉えていました。でも、まわりの考え方や接し方が少し変わることによって、虎夫くんの学校生活に大きな変化が!!



卷子さん

卷子さんは、周田とのコミュニケーションがうまくとれず、時としてえらそうに見えたり、いい加減な児童だと思われることもしばしば。友だちもそんな卷子さんに半ば呆れ顔で、人間関係をうまく構築できない状況にありました。でも、先生やお母さんがきっかけをつくったことによって、卷子さんの学校生活に大きな変化が!!

*今回は、自閉症やアスペルガー症候群などの広汎性発達障がいの診断を受ける前の児童への対処方法を中心に制作しました。

この虎の巻は、当事者の方たちの体験談を元に、学校生活において、発達に凸凹のある

子どもたちのまわりで発生しがちな“認識の違いを **ギャップ!!**”として表現し、

その解決策となる支援ポイントを **チェンジ!!**”として示しています。

双方の理解が深まるほど **グッドジョブ!!**”という好結果につながります。

学校で使える「虎の巻」もくじ

●虎夫くん編

虎の巻 その一	得意分野 機会あれば才能発揮……………	4
虎の巻 その二	全体把握 見通し立てば迷わず集中……………	6
虎の巻 その三	音量調節 調和のカギは数値表示……………	8
虎の巻 その四	広がる世界 サポートで生まれる友達の輪……………	10



●卷子さん編

虎の巻 その五	計量マスター 詳細指示で誤りなし……………	12
虎の巻 その六	実演解説 実演と説明が手本をつくる……………	14
虎の巻 その七	直球すぎると 言い方変われば相手も変わる……………	16
虎の巻 その八	恋の話は慎重に タブーの理解でクラス円満……………	18



どの子も輝く学級へ…………… 20

発達障がいのある人々とは…………… 22

札幌市内の相談窓口…………… 23

得意分野 機会があれば才能発揮



チェンジ!!



才能を
発揮
できた!!

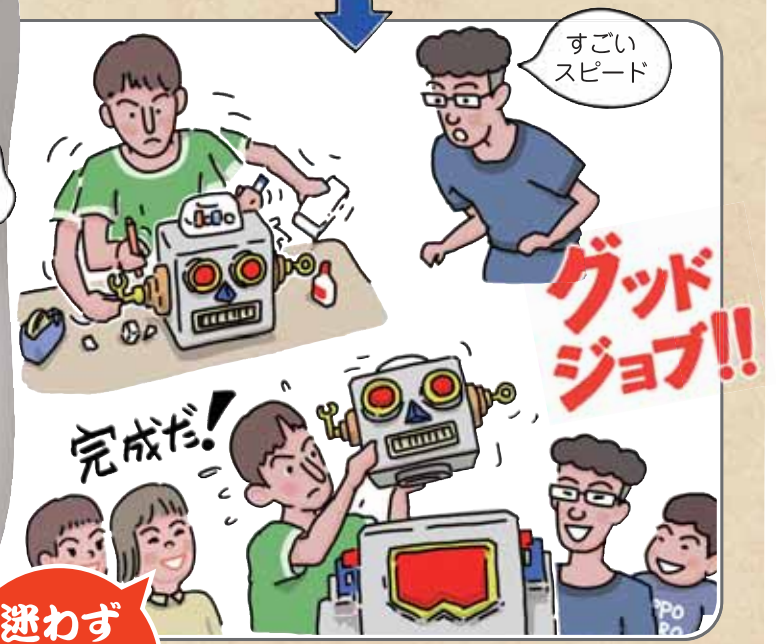
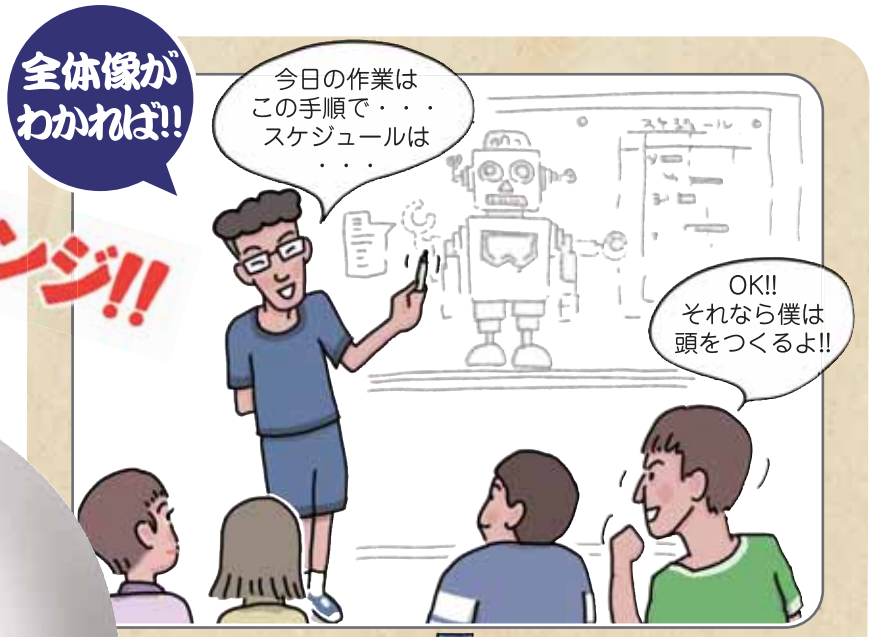
グッド
ジョブ!!

大好きな歴史の話になると一方的に話し続けてしまう虎夫くん。先生や同級生はそのたびに困り顔。得意なことを適切に表現できる機会が用意されることで、力を最大限に発揮できました。

虎の巻の二

全体把握

見通し立てば迷わず集中



迷わず
集中
できた!!

全体の見通しが立たないと自分の役割がつかめない虎夫くん。不安で作業ができません。全工程と完成イメージが最初に図示されることで、本来の手先の器用さを発揮してグループに貢献できました。

音量調節

調和のカギは数値表示



チェンジ!!



ハーモニーが生まれた!!

「元気な」の度合いを感じ取るのが難しい虎夫くん。調和を乱してみんなから浮いてしまいました。適度な音量が図と数値で示されることで、ちょうどよい声量になり、美しいハーモニーが生まれました。

広がる世界

サポートで生まれる友達の輪



サポートが
あれば!!

チェンジ!!



数日後



世界が
広がった!!

大勢で騒ぐのは苦手な虎夫くんも、少人数で、たまになら、友だちと
過ごしてみたいと思っています。先生が間に入ることで、スムーズに
クラスメイトの輪に入ることができ、仲間も増えました。

計量マスター 詳細指示で誤りなし



詳細な指示なら!!

チェンジ!!



早く完璧にできた!!

曖昧な表現を受け取るのが苦手な卷子さん。不安で固まっているのに「やる気がない」と思われてしまいます。指示が具体的になることで、自信が生まれ、授業に積極的に参加できました。

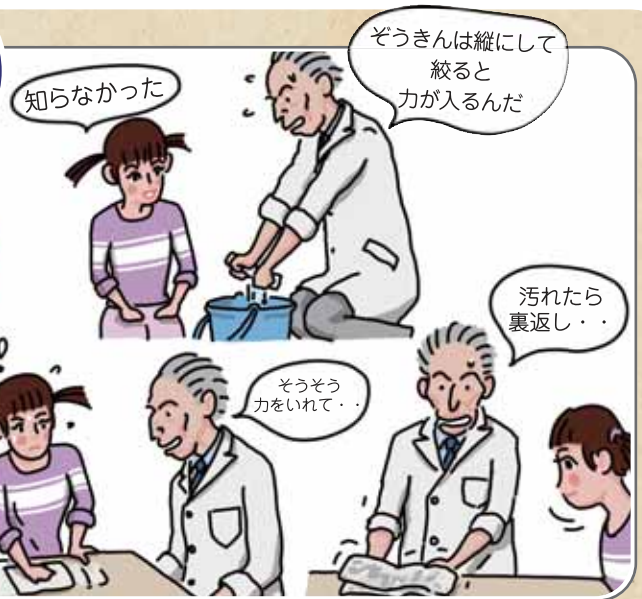
実演解説

実演と説明が手本をつくる



チェンジ!!

実演と
説明が
あれば!!



グッド ジョブ!!

手本と
なった!!

作業の役割が曖昧だと動けない卷子さん。道具も適切に使えませんが、実演と詳細な説明によって道具の使い方を身につけ、役割も理解し、短期間でみんなのお手本になりました。

直球すぎると

言い方変われば相手も変わる



ヒロくんのために
なってよかった

あんな風
に言われたら
・・・傷つくよ

ギャップ!!

言い方
変われば!!

優しく
ひとつずつ、
順に説明して..

えーっ、
そうなんだあ

チェンジ!!

解けたら
ほめてあげると
いいかも

うん、なんか
わかってきたぞ

ここはこうして...
うん、バッチリ
じゃあ、次は...

ありがとう!

グッド ジョブ!!

感謝 された!!

相手の気持ちを推し量るのが苦手な卷子さん。思ったことをそのまま口にして相手を傷つけてしまうことも。言い方のコツを知ることによって言葉が柔らかく伝わり、クラスメイトも感謝してくれました。

恋の話は慎重に

タブーの理解でクラス円満



ギャツプ!!

タブーが見えたら!!

チェンジ!!



話がはずんだ!!

暗黙のルールに気づくのが苦手な卷子さん。親切心から出た言葉で友だちを傷つけてしまいました。会話のタブーを図と言葉で理解することで、仲間とよりよいコミュニケーションがとれるようになりました。

どの子も輝く学級へ

特別支援教育の目指すところは「教育のユニバーサルデザイン化」です。発達障がいのある子どもも、その特性が理解され適切にサポートされることで、本来もっている多彩な能力が引き出されます。また、このことは彼らだけではなく、どの子にとってやさしい学級づくりの一歩でもあります。

その後の
虎夫くんは



仲良く遊べる仲間もでき、周りにも虎夫くんの良さが理解され、得意なことでも活躍の場を得ることができました!!

その後の
卷子さんは



クラス内でのコミュニケーションもスムーズになり、仲のよい友だちもできて充実した学校生活を送ることができました!!

虎の巻

職場で使える「虎の巻」& 暮らしで使える「虎の巻」

発達障がいのある人たちへの八つの支援ポイント

必読!

様々な人の助けを借りながらも成長し、青年への階段を上がっていく虎夫さんと卷子さん。しかし、思春期には思春期の、社会人には社会人の悩みが…。発達障がいのある人たちが職場や暮らしにおいてトラブルになりがち“認識の違い”とその解決策となる支援ポイントを示した『職場で使える「虎の巻」』、『暮らしで使える「虎の巻」』も、ぜひご覧ください。



この冊子をご利用になる方へ

この冊子の作成にあたっては、関係者で構成されたプロジェクトで度重なる議論を行うとともに、可能な限り、当事者の方の意見なども伺ってきました。この冊子が同様の悩みをもち苦しんでいる方々へ、少しでも「希望」を届けたいとの考えから、「グッドジョブ」として表現する最後のコマを“限りなくベスト”な結果として描くこととしました。

実際の現場においては、「チェンジ」として掲示したような解決策が短期間でベストな結果を生み出すことは少なく、様々な状況改善の手立てと長い時間をかけた上で、ようやく少しだけ解決に近づく、といったケースが一般的です。

発達に凹凸のある子どもたちを「特別な子ども」として扱うのではなく、みんなそれぞれが違うということを受け止め、それぞれの特性に合わせたサポートが行われていくことで、どの子もいきいきと活動できるクラスへと成長していく、そんな一歩を踏み出してもらおうための一助として、この冊子が活用されることを期待しています。

発達障がいのある人々とは

特定の脳の器質の変化※をもって生まれたために、ある一定の特性をもつ人々を指します。

種類としては主に、「広汎性発達障害(自閉症、アスペルガー症候群など)」、「注意欠陥/多動性障害」、「学習障害」の3つがありますが、人により一つだけの事も、複数併せもつこともあります。

また、子どもの頃からその特性が目立つこともあれば、思春期や青年期以降目立つようになることもあります。そのため、人によって診断時期は様々で、中には生涯、診断がつかないこともあるだろうといわれています。

その数は、文部科学省が平成24年に小中学校の先生を対象に行った「学習面、行動面に著しい困難を示す子ども」についての調査結果の数値である6.5%が一つの目安になると考えられます。元々の「人となり」にこれらが合わさって、その人らしさが生まれることとなります。

発達障害の種類	特性
広汎性発達障害 <small>(自閉症、アスペルガー症候群など)</small>	①コミュニケーションの難、②社会性の難、③興味・関心の限定とこだわりの3つが診断基準ですが、人により程度に大きな差があります。 特性を生かした就労上のメリットとしては、「正確さ」、「集中力維持」、「真面目さと熱心さ」などが挙げられます。特に、仕事の繰り返しによる技術向上は特質すべきものがあります。
注意欠陥/多動性障害 <small>(AD/HD)</small>	①注意の持続に難がある、②動きが多い、③衝動傾向がみられる、などにより診断されます。 青年期以降、これらの傾向は軽くなる場合も多くみられますが、日常的な工夫は必要となります。機動性を発揮して自ら動く職種において、特に能力が発揮されます。
学習障害 <small>(LD)</small>	読字障害、書字障害、算数障害などがあります。

※「器質の変化」とは、医学用語で組織や細胞が、もとの形態にもどらないような変化が起こることを言います。

一人で悩まず、まずはご相談ください。

札幌市内には、子どもの発達について悩みを抱える方やそのご家族への支援を目的とした行政機関や専門機関があります。お気軽にご相談ください。

【教育相談、就学相談に関すること】

札幌市教育センター(西区)
 西区宮の沢1条1丁目1-10
 教育相談室(受付) 011-671-3210
 幼児教育センター 011-671-3454

【発達障がい者の支援に関すること】

札幌市自閉症・発達障害支援センターおがる(東区)
 東区東雁来12条4丁目1-5
 011-790-1616

【精神保健福祉に関すること】

札幌こころのセンター(中央区)
 中央区大通西19丁目 WEST19
 011-622-0556

【発達の遅れ、障がいに関すること】

札幌市児童相談所(中央区)
 中央区北7条西26丁目
 011-622-8630

特殊教育から特別支援教育への転換が行われ、発達障がいなど、通常の学級に在籍する子どもが抱える課題についても、広く知られるようになってきました。しかし、正しい理解が不十分であったり、逆に、診断名にとらわれすぎ対応が画一的になってしまうなどの傾向も見られます。大切なことは、相手との認識の違いなどがあることに気付くことだと思います。結びに、この冊子の作成にあたり、当事者の方からいただいた言葉を掲載します。

小学校から高校までの学校生活で最も苦勞したのは、「友だちをどうやってつくるか」ということでした。他の人に心を開くことができず孤立する一方、人と心を通わせることや一緒に楽しむ経験に飢えていて、その現実と欲求との間のギャップに苦しんでいた日々でした。

発達障がいのある人は、その傾向の一つとして「一人でいることを好む」と言われますが、決してそんなことはないと思います。どうやって人とつき合ったらいいのかわからなかったり、人と話していても興味や関心の違いが原因で共感されにくかったり、そういった傾向が元で人より人間関係での失敗が多いのです。それで怯えてしまったり、自分を守るために積極的になれなかったりした結果、安心や避難を求めて一人でいることが多くなってしまふ...という仕組みがある気がします。つまり「一人で居たい」とか「一人を好む」と言った傾向は、そのような対人関係の困難さを処理しようとした結果、表面化してきている問題の一種ではないでしょうか。

たしかに、一人で出来る事が好きだし、一つの事に強く集中する傾向もあります。けれど、「一人で出来る=一人でやらせておいていい」ではないと思うし、「一つの事に集中する=それが大好き」ではない場合もあるのです。

学校の先生方が「発達障がいのある子はこういう子」といって、発達障がいの知識や対処法で機械的にその子を決めつけないで、「一人でいるのは心配だなあ」とか「勉強はよくできるけど、どうも元気がないなあ」といった当たり前の感性を大事にして、声や気をかけていただけたらなあ、と思います。(原文のまま)